

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
関東運輸(株)米子倉庫

欄にコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q1 建築物の環境品質						2.6
Q1 室内環境			0.30			2.0
1 音環境		1.0	0.15			1.0
1.1 騒音		1.0	0.40			
1 1 暗騒音レベル		1.0	1.00			
1.2 遮音		1.0	0.40			
1 1 開口部遮音性能		1.0	0.60			
2 2 界壁遮音性能		1.0	0.40			
3 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		1.0	0.20			
2 温熱環境		2.4	0.35			2.4
2.1 室温制御		3.0	0.71			
1 1 室温設定		3.0	0.38			
2 2 窓の開口・遮り制御性						
3 3 外皮性能		3.0	0.25			
4 4 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御						
2.3 空調方式		1.0	0.29			
3 光・視環境		1.2	0.25			1.2
3.1 昼光利用		1.8	0.30			
1 1 昼光率		1.0	0.60			
2 2 方位別開口						
3 3 昼光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策		1.0	0.30			
2 2 昼光制御		1.0	1.00			
3.3 照度		1.0	0.15			
1 1 照度		1.0	1.00			
3.4 照明制御		1.0	0.25			
4 空気質環境		3.0	0.25			3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50			
1 1 化学汚染物質		3.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1 1 換気量						
2 2 自然換気性能		3.0	1.00			
3 3 取り入れ外気への配慮						
4.3 運用管理		3.0	0.20			
1 1 CO ₂ の監視		1.0	0.50			
2 2 喫煙の制御	倉庫内に喫煙施設は設けない。	5.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.3
1 機能性		3.4	0.40			3.4
1.1 機能性・使いやすさ		5.0	0.60			
1 1 広さ・収納性	荷物をおきやすいように、柱等を最小限にし内部空間を広くした。	5.0	1.00			
2 2 高度情報通信設備対応						
3 3 バリアフリー計画						
1.2 心理性・快適性		1.0	0.40			
1 1 広さ感・景観						
2 2 リフレッシュスペース		1.0	1.00			
3 3 内装計画						
1.3 維持管理						
1 1 維持管理に配慮した設計						
2 2 維持管理用機能の確保						
2 耐用性・信頼性		2.6	0.31			2.6
2.1 耐震・免震		3.0	0.48			
1 1 耐震性		3.0	0.80			
2 2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.5	0.33			
1 1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.25			
2 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.25			
3 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 4 空調換気ダクトの更新必要間隔						
5 5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.17			
6 6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.25			

2.4 信頼性			2.2	-		
1	空調・換気設備		3.0	0.20		
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20		
3	電気設備		3.0	0.20		
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		
5	通信・情報設備		1.0	0.20		
3 対応性・更新性			3.9	0.29		3.9
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31		
1	階高のゆとり	天井高6.0mを確保している。	5.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	中柱を1列のみの設計とした。	5.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		
3.3 設備の更新性			3.8	0.38		
1	空調配管の更新性		3.0	0.19		
2	給排水管の更新性	消火配管は、埋設ではなく架空配管としている。	5.0	0.19		
3	電気配線の更新性		3.0	0.13		
4	通信配線の更新性		-	-		
5	設備機器の更新性	ドライ庫より各室の天井裏へ入る事ができメンテナンスをしやすく	5.0	0.25		
6	バックアップスペース		3.0	0.25		
Q3 室外環境(敷地内)				0.40		2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		
LR1 建築物の環境負荷低減性						3.3
LR1 エネルギー				0.40		3.4
1 建物の熱負荷抑制				-		-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29		3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		
3 設備システムの高効率化		ERR=23.4	4.0	0.43		4.0
4 効率的運用			3.0	0.29		3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル				0.30		3.5
1 水資源保護			3.0	0.15		3.0
1.1 節水			-	-		-
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	1.00		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63		3.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント、電炉鉄屑、電炉鋼材	5.0	0.21		
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	ボード、再生骨材の路盤材利用	3.0	0.21		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	冷蔵パネル等は、鉄骨下地から容易に取り外せる。	5.0	0.25		
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.9	0.22		2.9
3.1	有害物質を含まない材料の使用	建具塗装には、4☆を使用。	4.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.68		
1	消火剤		-	-		
2	断熱材		2.0	0.50		
3	冷媒		3.0	0.50		
LR3 敷地外環境				0.30		2.9
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33		3.8
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		2.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を設けていない。	5.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		
1	雨水排水負荷低減		-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		
3	交通負荷抑制	トラックバスを敷地内に設けている。	4.0	0.33		
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33		
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33		2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		
1	騒音		3.0	1.00		
2	振動		-	-		
3	悪臭		-	-		
3.2 風害、日照障害の抑制			1.6	0.40		
1	風害の抑制		1.0	0.70		
2	日照障害の抑制		3.0	0.30		
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	1.00		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	-		